

大鹿村中央構造線博物館たより

129号



2020年2月発行

TEL:(0265)39-2205
staff69@mtl-muse.com

西方見聞録「世界はこんなふうだった」 インド北西部編を開催しました

鹿塩在住の伊東一郎さんによる解説付き諸外国写真上映会、今年はインド北西部編ということで、1/8(水)、10(金)、11(土)、17(金)、18(土)の5日間にわけて、上映いただきました。この紙面上では、当日の写真からいくつか取り上げて、紹介します。カラー写真をご覧になりたい方は、伊東さんが開設された「世界写真の旅」のホームページ <https://xxxwpt.jimdofree.com/>で、いくつかは見るすることができます。



写真1 インドでも北部の山岳地帯は寒い
(グルマルグ / ジャンムーカシミール)



写真2 水上に浮かぶハウスボードにも人が住んでいる
(スリナガル / ジャンムーカシミール)

写真3, 4は、2018年のラジャスタン州の写真です。州都ジャイプールの旧市街は、赤色の砂岩を利用して造られた城壁や建物が多く、別名ピンクシティと呼ばれているそうです。ただし、

写真1, 2は、1989年のジャンムーカシミール地方の写真です。この地域は、もともとジャンムーカシミール州でしたが、昨年、インド政府から自治権を取り上げられ、2020年現在は、インド政府の直轄地^{直轄地}となっています。インドというと暑いイメージがありましたが、北部のこの地域は、ヒマラヤ山脈の麓に位置し、標高が高いため、冷涼とのことです。写真1のグルマルグの町は、スキーリゾートで有名なのだそうです。また、夏季の州都であったスリナガルの町は、湖とそこに浮かぶハウスボードが有名なのだそうです。写真2のハウスボードは、実際に人が住んでいたり、宿泊施設になっていたりするそうです。



写真3 ピンクシティにある「風の宮殿」
(ジャイプール / ラジャスタン州)



367 Near the Thar Desert, Jaisalmer Outskirts, Rajasthan

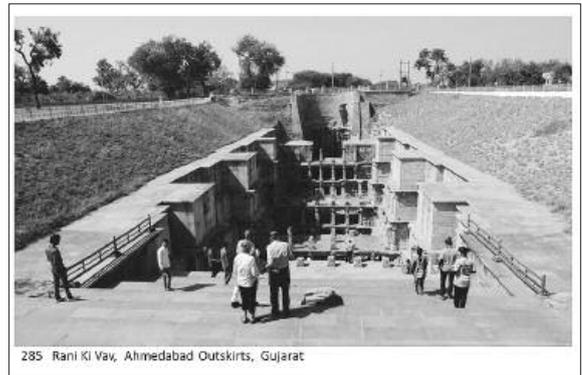
写真4 西部にはタール砂漠が広がる
(ジャaisalmer周辺 / ラジャスタン州)

実際は、ピンク色というよりは、赤茶色に近いようです。この赤色の理由は、砂に含まれる鉄分が酸化して赤い色を呈するためです。写真3は、1799年に建てられたジャイプールの王様(マハラジャ)の宮殿で、ヒンディー語で「風の宮殿」という名前がついています。この写真ですと、中央部分だけピンク色で、まわりは黄色なのですが、反対側は全面がピンク色だそうです。写真4は、パキスタンとの国境に広がるタール砂漠です。ラジャスタン州は、先ほどのカシミール地方とは気候が全く違い、気温が高く、乾燥しているそうです。



C18 Rain of Kutch, Gujarat

写真5 一面の塩の砂漠
(カッチ湿地 / グジャラート州)



285 Rani Ki Vav, Ahmedabad Outskirts, Gujarat

写真6 神殿のような「王妃の階段井戸」
(アフマダーバード近郊 / グジャラート州)

写真5, 6は、2018年のグジャラート州の写真です。写真5は、州の北西、パキスタンとの国境に近いところには、広大な低湿地帯が広がっていますが、乾季には乾燥して塩が析出して、あたり一面真っ白になるそうです。写真6は、州の東側の都市、アフマダーバード周辺に見られる井戸の一つで、11世紀の建造物だそうです。この地域には、このような「階段井戸」と呼ばれるものが、いくつも存在し、生活水を確保するためだけでなく、涼を求めて集まる場所としての役割もあったようです。実際に行ってみると、壁面にはめ込まれた多数の凝った造りの彫刻物に目を奪われる一方で、あまり気持ちの良くない臭いがする場所だったそうです。

伊東さんによりますと、来年は中東編を計画中的のことですので、ご期待ください。(宮崎)



図1 インド地図

※白地図専門店 freemap.jp 作成の画像を利用して作成。
インド国内の塗り分けは、外務省ホームページ
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/india/index.html>
を参照(最終アクセス2020/01/18)